

現代倫理道德研究会（平成 30 年 6 月 6 日）発表要旨

「廣池千九郎が提起した『最高道德』について（その 2）」

—『最高道德』の構造分析—

社会科学研究室
教授 梅田 徹

「最高道德」に関する私の研究は三つの部分から構成される。今回の発表は、その二回目の部分を構成する。「最高道德」は、廣池が 90 年以上前に行ったパッケージ化の産物である。廣池自身も「広汎な」概念であることを認めているように「最高道德」のパッケージの中には実に多様な要素が含まれている。廣池が使った言葉を離れて、そのパッケージの中に何が含まれているかを探り出す作業に取り組んだ。本当に大事なものが含まれているとすれば、それは廣池の言葉を使わなくても、それを表現できるはずである。廣池が提示した「最高道德」という概念の構造を明らかにすることが主たる狙いであるが、同時に、その概念の中にどのような要素が含まれるのか、また、それらを抽出する際には、何に気を付けなければならないかについても光を当てようとした。その過程で、次の研究につながるいくつかの新たな洞察を得ることができた。